

2017年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

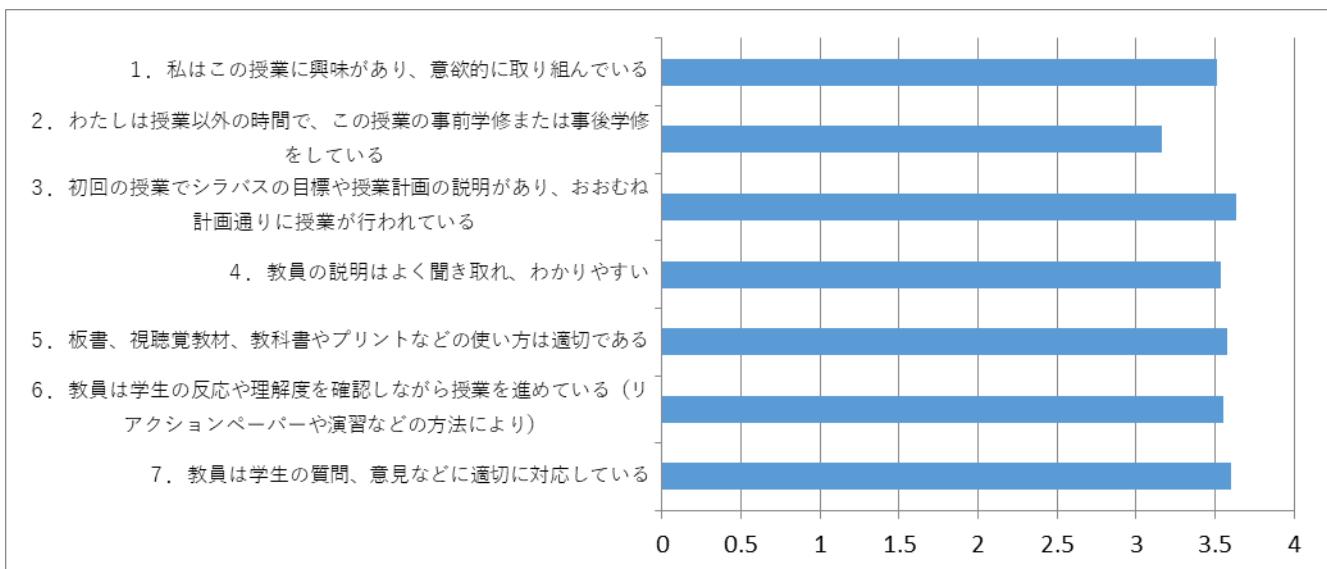
表1 授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率 (17春セメ実施率)
共通科目	51	50	98% (100%)
看護学部	37	37	100% (100%)
社会福祉学部	66	66	100% (100%)
リハビリテーション学部	62	60	97% (100%)
計	216	213	99% (100%)

2017年春セメスターにおける授業評価の実施率は100%であったが、秋セメは少しばかり下がり全体では99%となっている。FD委員会からの協力要請を徹底し、実施率100%を目指すものとする。

2. 授業評価結果

図1 全科目における質問項目ごとの平均評定値



評価票の評価について「そう思う」(4点)～「そう思わない」(1点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図1～図5)

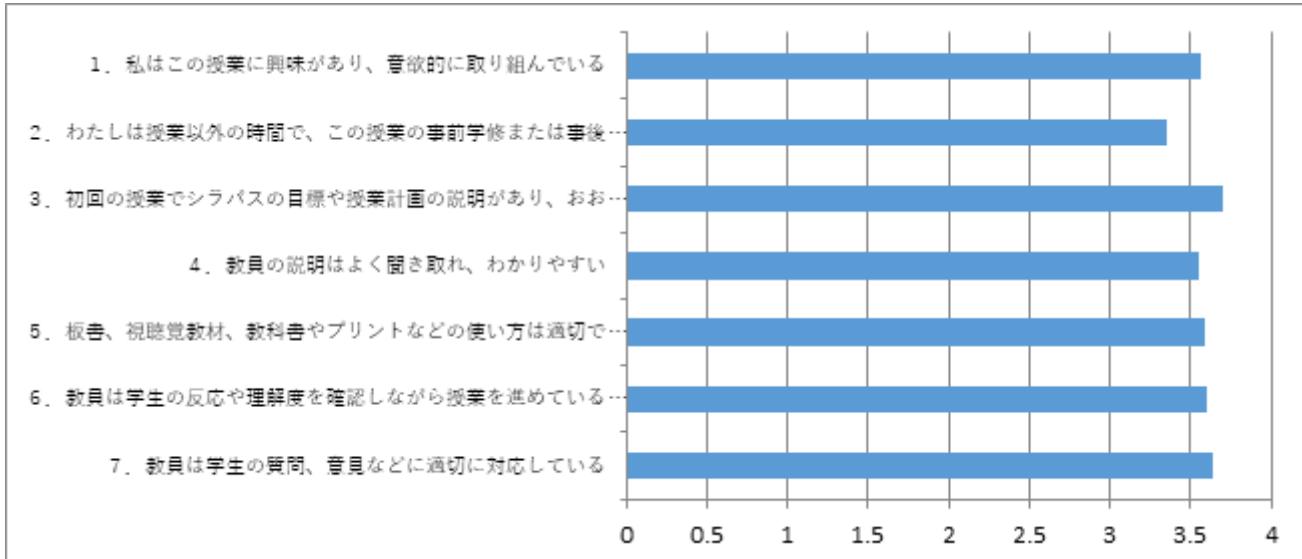
表1.秋セメ授業評価平均の推移

質問	2015 秋	2016 秋	2017 秋
1	3.36	3.46	3.51
2	2.99	3.03	3.17
3	3.49	3.56	3.63
4	3.39	3.44	3.53
5	3.42	3.49	3.58
6	3.37	3.45	3.55
7	3.43	3.51	3.60

左の表1は2015年度から2017年度の秋セメ授業評価平均点の推移を整理したものである。どの項目においても、毎年平均点が上昇している。授業の向上・改善が全学的に継続して取り組んできた成果と言えよう。また、一般的には受講者数が多い大規模授業の方が授業評価は低くなりがちな傾向にあるが、本学においては受講者数による違いは殆ど無く、大・中・小規模授業それぞれの平均点がほぼ3.50となっていた。これも授業改善の取り組みの成果と認められる。

今後もいっそうの授業改善・向上に全学で取り組むと共に、授業評価アンケートの内容や方法を再検討する作業にも着手しさらなる授業改善・向上へと繋がるようにしていきたい。

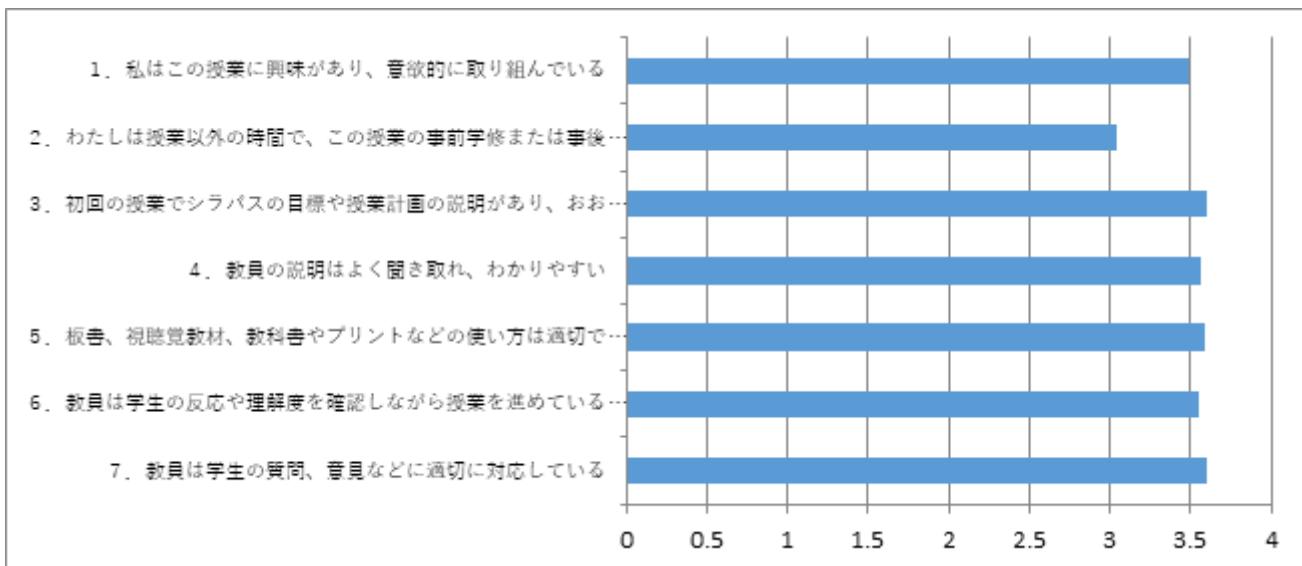
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

2016年秋セメスター時の結果と比較し全項目上昇した。そのうち、これまで毎回最も低かった項目2の授業以外の事前事後学修について上昇幅が最も大きかった。授業の理解を高めるための各科目の課題等の工夫による成果であろう。課題については授業以外学修時間調査から負担と思われる授業外学修時間数ではなかったが、課題量についても配慮していく必要がある。項目4、6、7についても上昇が見られた。教員の丁寧な学生への教授対応が評価された。今後も各科目の教育改善に取り組み授業評価の維持・向上に努めていきたい。

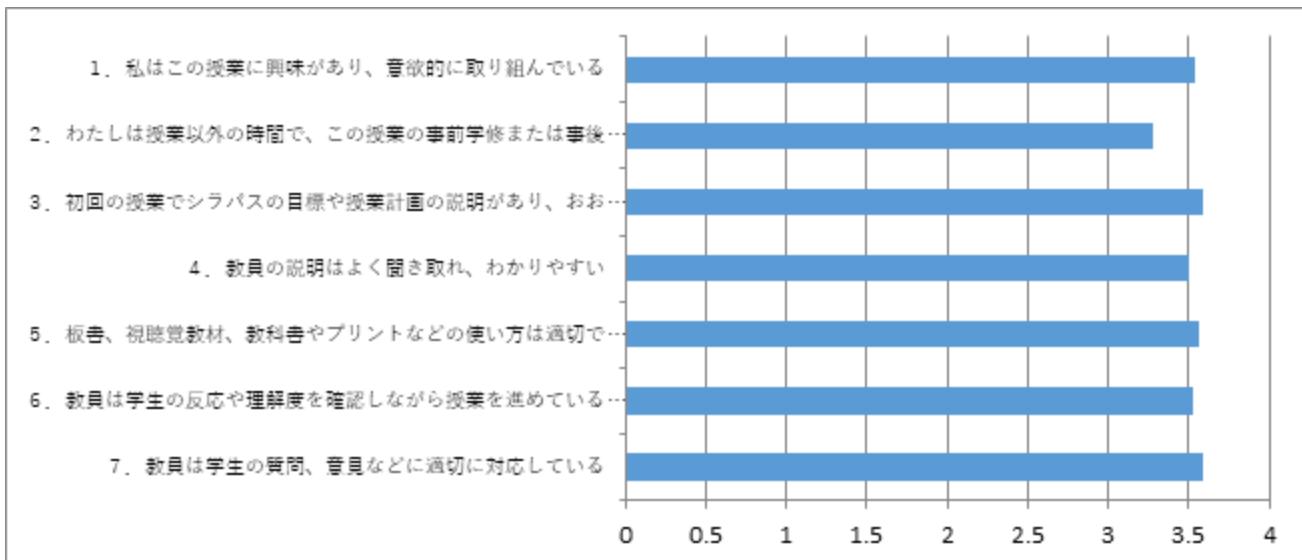
図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定値



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

全項目の評価点が、2015年度秋セメより3年連続で向上している。他学部の評価点と比した場合でも、項目2を除く全項目において有意な差は見られず、授業改善の取組が成果を挙げている結果と言える。ただし、学部FDの課題とする項目2について、評価点は上昇しつつも他学部と比して低い。この点について2017年2月に学部FD研修会を開催し、「事前・事後学習については教員同士のある程度統一した認識・見解を共有することや、学生への指導（助言）をじっくり丁寧に行っていくことが必要」等の意見が出て、教員同士の共有により改善を図ろうとしている。今年度もこの点について特に問題意識をもって授業改善・向上に取り組んでいく。

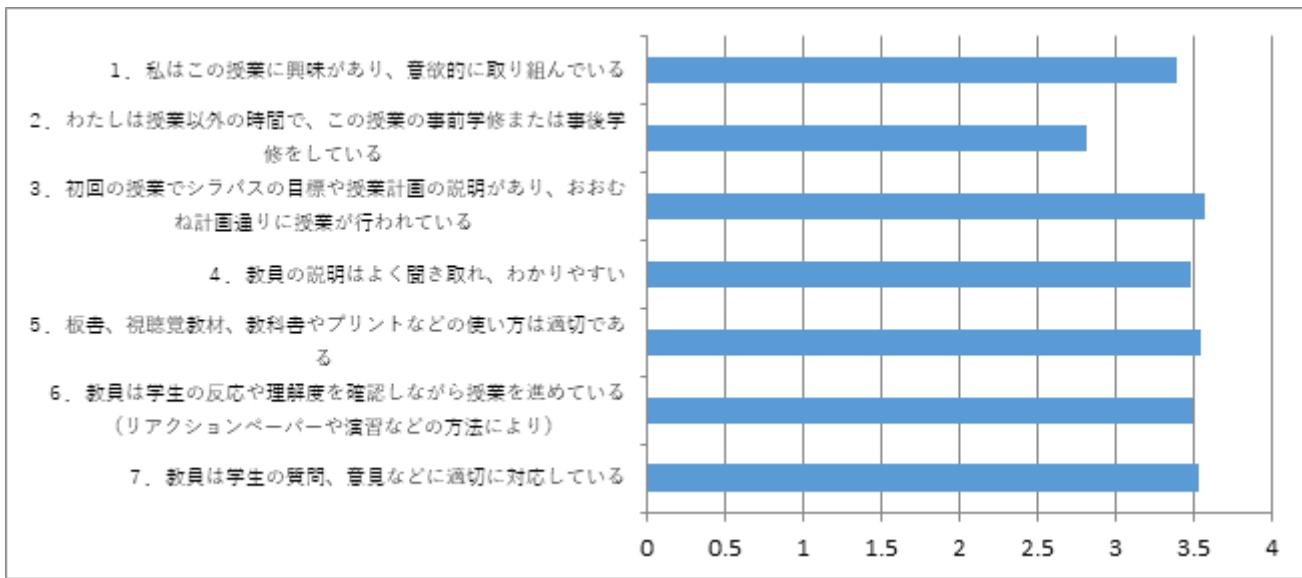
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

2017年度春セメスター時の結果と比較すると、全ての項目で数値が向上していることがわかる。各教員が各自の授業形態に合わせ、学生にとってわかりやすく丁寧な授業づくりに取り組んだ成果であると考える。Q2以外の全ての質問項目において3.50ポイント以上となっており、良好な結果であったと言えるが、Q2の「事前事後学修の実施」については、春セメの3.18よりは3.28と若干向上したもの、他と比べると低値となっている。今年度FD活動としてもループリック評価、ポートフォリオ、反転授業等の質的な学修到達度理解や自己学修を充実するための手法の導入を推進しているため、さらに今後の改善を期待したい。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

今回対象科目の一部において授業評価が行われなかつた点について、今後はすべての科目で授業評価が実施できるように環境を整えたい。過去の秋セメスターの結果と比較すると、徐々にすべての項目の平均評定値が上昇し、各教員がシラバス、授業内容、媒体、学生の理解度の確認等、授業の工夫に取り組んだ成果だと考えられる。項目中最も低い「事前・事後学修」においても徐々に上昇している。これも各教員が「事前・事後学修」を意識し、学生に学修内容を提示しているためである。また、平均評定値の上昇は、学生の主体的な学修の取り組みが徐々に進んでいる成果だと考えられる。